

<調査1>

歯科診療所における 初診来院患者の実態調査

杉山 精一 Seiichi SUGIYAMA, DDS

歯科医師 Private Practice

医療法人社団清泉会杉山歯科医院
千葉県八千代市村上団地 1-53
Sugiyama Dental Clinic
1-53, Murakamidanchi, Yachiyo, Chiba
276-0027, Japan

Do Project; The Survey 1

Survey on New Patients Who Visit Dental Offices

There are few patients who visit dental offices with dental prevention as a main purpose at the first stage of examination. On this account, it is then important as a baseline of the dental treatment system to comprehend the actual situation of new patients. For example, what dental condition do new patients have when they visit dental offices?. "Report on the survey of dental diseases", the field survey, has been referred to for this purpose. Member dental offices of our association have accumulated clinical information on their patients in the common protocol as a database. Therefore, I made a template for selecting data of necessary items to understand patient's actual condition at the first visit after excluding the identifiable individual information and collected the data on patients from many dental offices effectively. This method allowed for collecting patients' data with little difficulty by area and dental office from 30 dental offices in 13 prefectures. After having sorted the data, I categorized by sex, the number of existing teeth and the age-specific degree of gingival disease progress. *J Health Care Dent. 2006; 8: 33-37.*

キーワード: survey on new patients

はじめに

診療室にどのような状態の患者さんが来院しているかを知ることは、歯科疾患の対策を考える上でもっとも基本的な情報である。日本における歯科疾患の調査としては6年ごとに厚生労働省が実施している歯科疾患実態調査があるが、この調査はフィールドの調査であり診療室に来院する患者調査ではない。

日本ヘルスケア歯科研究会は、従来の歯科治療のスタイル、すなわち悪くなってから修復治療を始め、そしてそれを繰り返す医療は、生涯にわたる口腔の健康維持のためにはならないとの認識にたち、予防を基本とした定期管理型の歯科医療の普及を目的として設立された。会員の診療室では診療システムを工夫し、さまざまな取り組みを行っているが、初診の段階で予防を目的に来院される方は多くはない。初め

での来院時には、何らかの歯科疾患を抱えているのが現状であり、応急的な治療を行った後、リスクを把握してメンテナンスへ移行する診療システムが一般的である。そのため、どのような状態の初診患者が来院しているのか、初診患者の実態を把握することは、診療システムのベースラインとして必要な情報となる。

研究会では会の設立後まもなく、患者臨床情報管理データベースソフト“ウイステリア”を作成し、その普及に努めてきた。今回の初診患者調査では、会員診療所に日々蓄積されている患者データから個人を特定できる情報を予め除外した上、初診時の患者実態を知るために必要な項目のみを回収するテンプレートを作成し、効率的に多施設、多数の初診患者データを集積することとして、地域や診療所による偏りの少ないデータとなることを期待して調査を行った。

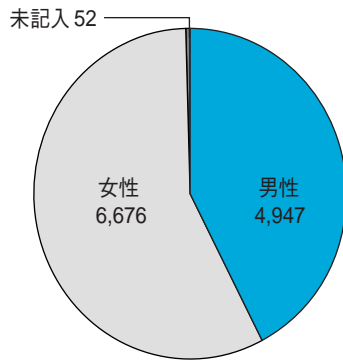


図1 初診患者の性別

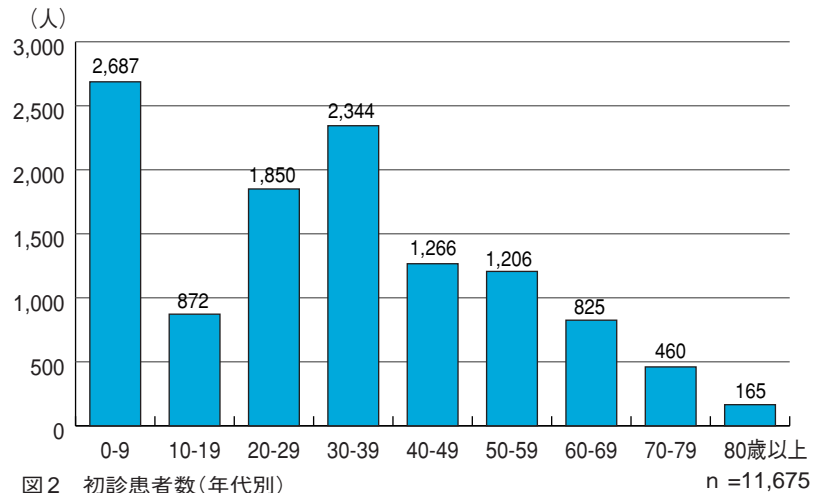


図2 初診患者数(年代別)

n = 11,675

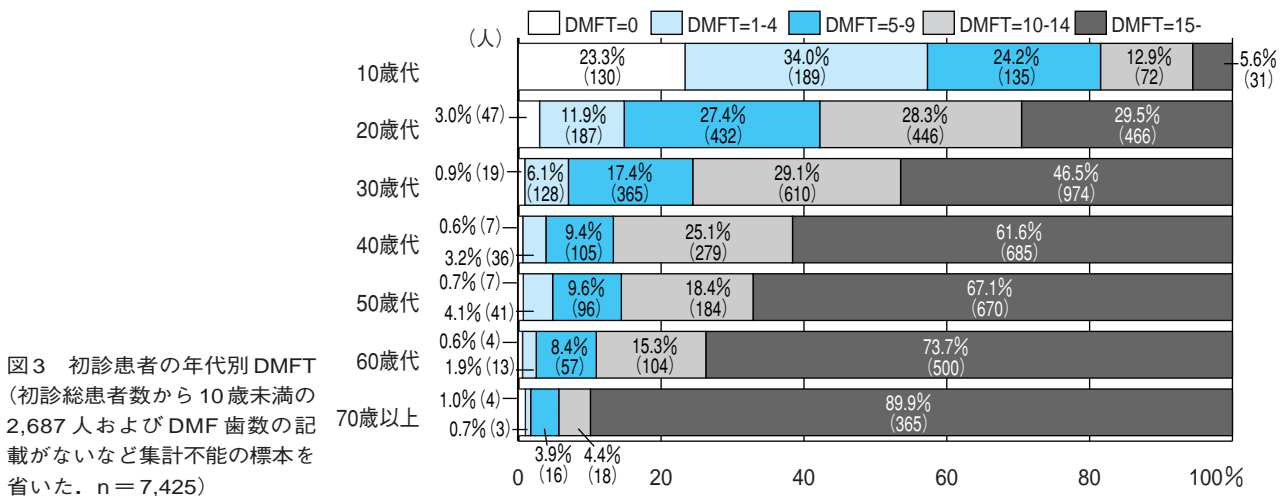


図3 初診患者の年代別DMFT (初診総患者数から10歳未満の2,687人およびDMF歯数の記載がないなど集計不能の標本を省いた。n = 7,425)

調査方法

1. 調査に参加する診療所としての資格要件

- ①日本ヘルスケア歯科研究会会員の診療所であること
- ②初診患者の口腔内データとして、小児は、口腔内写真、DMF歯数、成人は、口腔内写真、DMF歯数、残存歯数、歯周病進行度、喫煙経験の記録があること
- ③資料をデジタルデータとして提出できること
- ④すべての初診患者についてのデータがあること
ただし口腔内情報に欠落がある患者があってもよいとした。

2. 調査対象患者

2005年1月1日から2005年12月31日に来院した初診患者。初診患者とは、その診療室に全く初めて来院し

た患者とした。

3. 調査項目

- ①性別
- ②生年月日
- ③20歳未満はDMF歯数
- ④20歳以上はDMF歯数
残存歯数(智歯を含めない)
歯周病進行度(日本ヘルスケア歯科研究会のプロトコールによる¹⁾)
喫煙経験

4. 調査参加診療所の募集

調査参加診療所は、調査目的内容についてニュースレター等で告知し、会員から公募した。参加診療所は13都道府県30診療所である。

5. 調査データの回収・集計方法

調査データの回収用テンプレートを事務局から参加診療所へ送付し回収した。回収したデータは事務局で診療所名が特定できないように匿名処理行って集計作業を行った。

回収された初診患者データは30診療所、14,648名であった。回収されたデータのうち2005年以外のデータ2,960件、生年月日が空白・誤入力7件、初診残存歯数が34歯以上6件を削除して解析に使用した患者データは11,675(79.7%)名である。

結果

初診患者の性別、年代別と20歳まで年齢別の初診患者数、10～70歳以上の年齢別(10歳区分)DMFT、5～20歳まで年齢別DMFT、20歳以上年齢階層別(5歳区分)DMFT、20歳以上年齢階層別(5歳区分)残存歯数、年齢階層別歯周病進行度(全体、非喫煙者、喫煙者)について集計した(図1～10)。

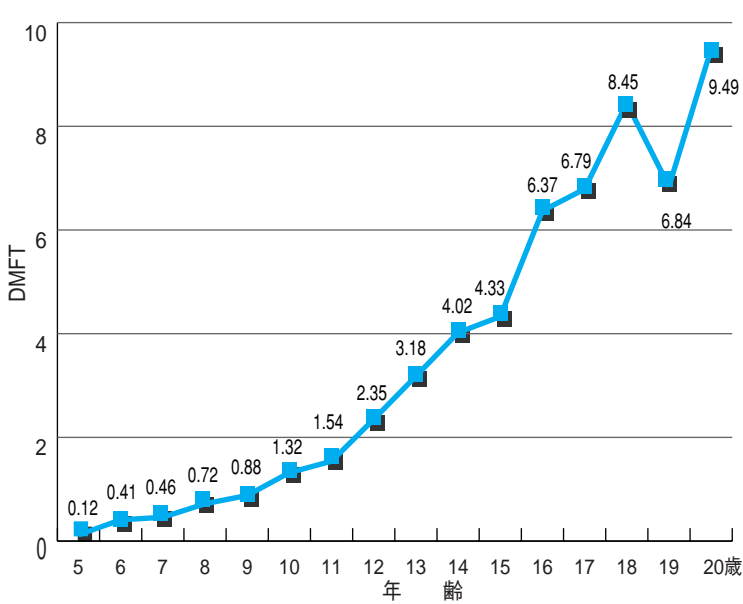
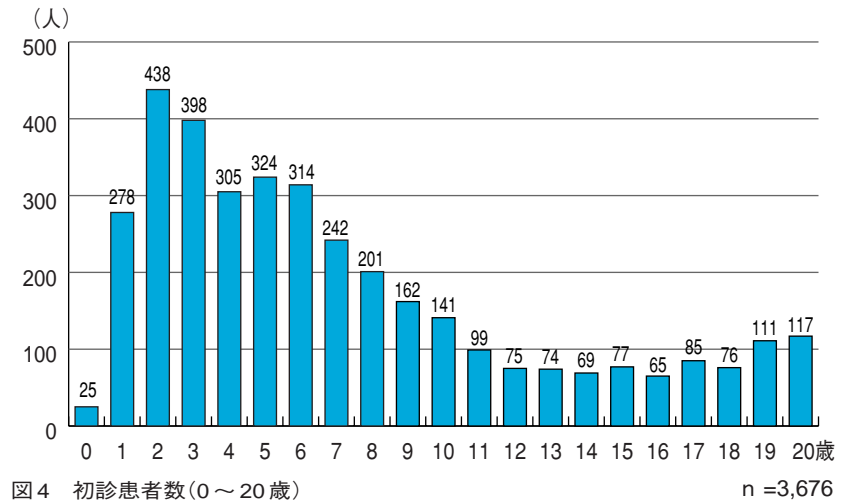


図5 初診患者のDMFT(5～20歳)

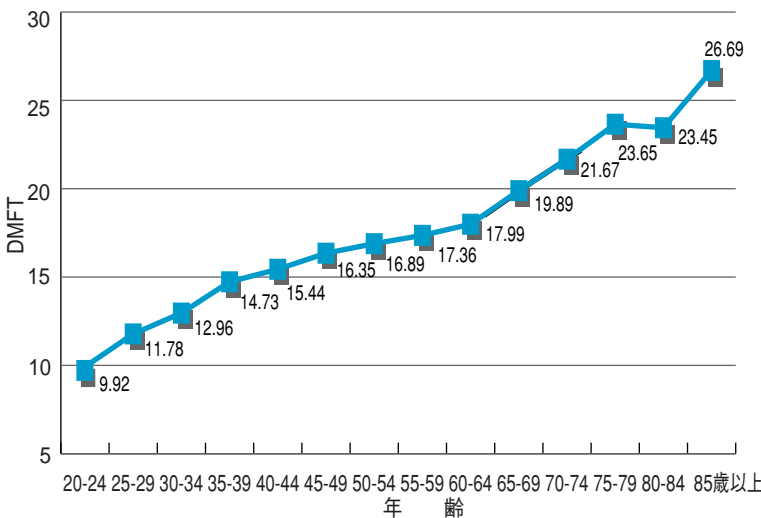


図6 初診患者のDMFT(20～85歳以上)

20歳～85歳初診患者残存歯数(2005年)

年齢	男女		男性		女性	
	DMFT人数	人数	DMFT人数	人数	DMFT人数	人数
20-24歳	27.9	635	27.9	226	27.9	397
25-29歳	27.8	999	27.9	380	27.8	604
30-34歳	27.6	1168	27.7	438	27.6	708
35-39歳	27.2	971	27.1	368	27.2	590
40-44歳	26.8	647	27.0	252	26.6	382
45-49歳	25.8	496	26.0	213	25.8	274
50-54歳	24.6	527	24.1	204	24.8	314
55-59歳	23.7	458	24.4	212	23.3	311
60-64歳	22.3	539	21.7	181	22.7	269
65-69歳	20.2	270	20.3	104	20.4	158
70-74歳	17.3	245	18.0	97	16.9	141
75-79歳	16.6	133	17.3	62	15.9	69
80-84歳	13.8	47	14.0	17	13.7	27
85歳以上	8.6	33	7.2	11	9.3	22

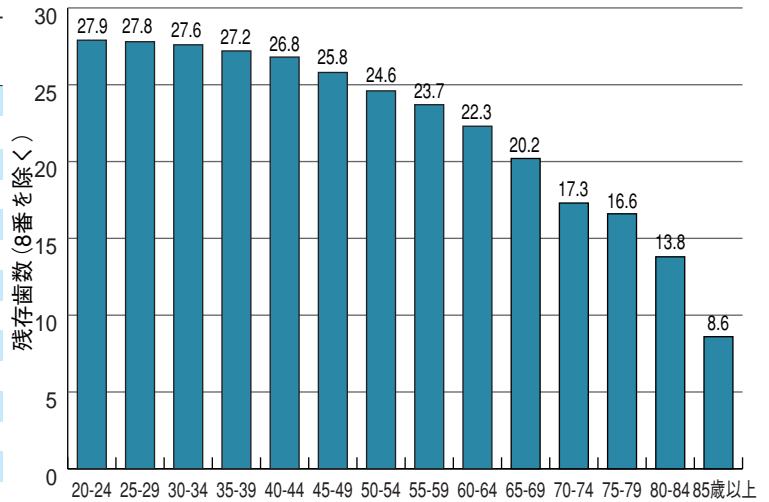


図7 初診患者の残存歯数(20～85歳以上)

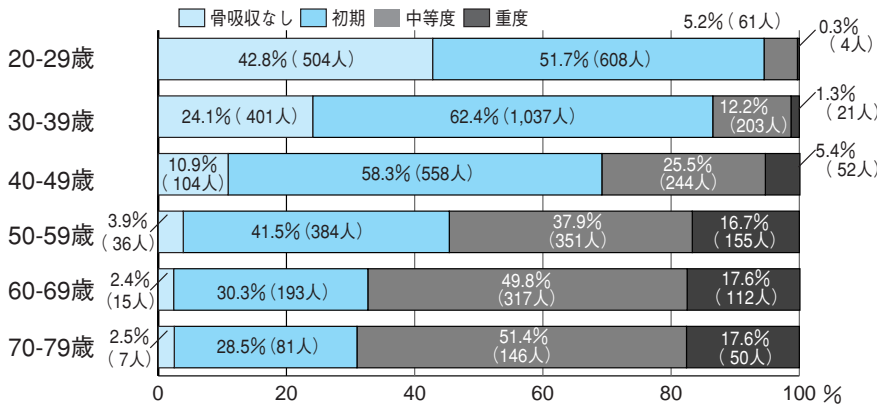


図8 歯周病進行度(20～79歳初診患者)
(80歳以上は対象人数が少ないので省いている)

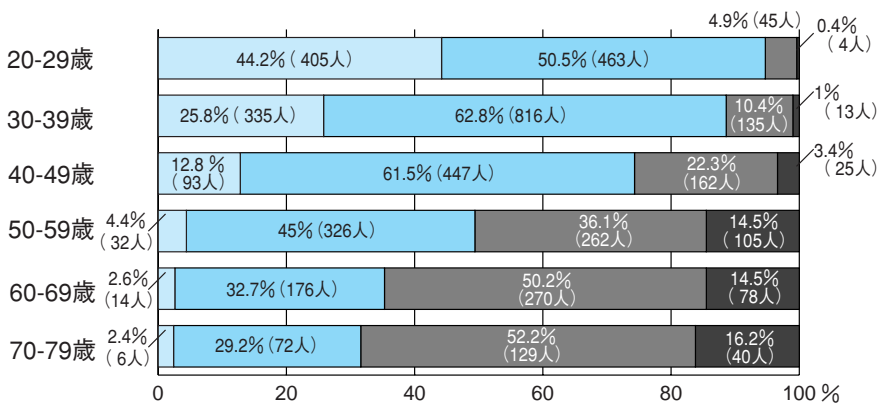


図9 非喫煙者の歯周病進行度(20～79歳初診患者)
(80歳以上は対象人数が少ないので省いている)

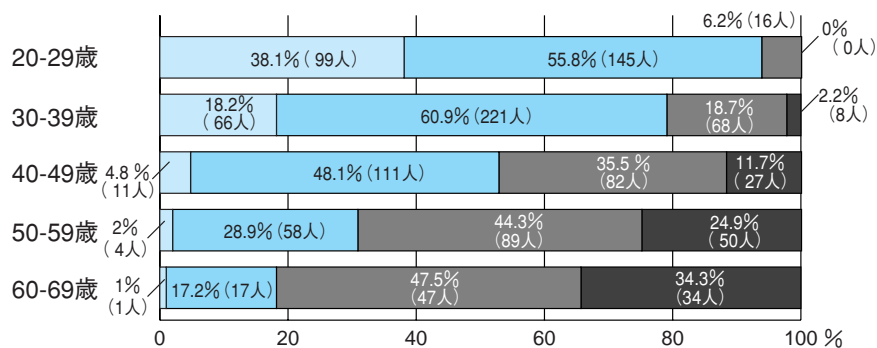


図10 喫煙者の歯周病進行度(20～69歳初診患者)
(70～79歳, 80歳以上は省く)

考 察

今回の初診患者調査はメンテナンスの成果を知るための調査2と調査3の企画をする段階で発案された。

従来歯科疾患の実態調査としては厚生労働省の歯科疾患実態調査があるが、これは診療所に来院する患者を表しているものではなかったため、この調査は歯科医院における患者調査として重要な基本情報となる。今回の調査に参加したのは13都道府県30歯科医院であるが、都市部から地方まで1万人以上のデータであり、初診患者の平均的な状況を表していると思われる。このデータと自分の医院のデータを比較することにより、自分の医院のおかれている状況を知ることができる。また来院された患者さんにはこのデータと比較して患者さん自身の状態がどこに位置するかを知ってもらうことも可能となる。また、メンテナンスの成果を知るためのデータとしても活用できるだろう。メンテナンスの成果のような継続的(コホート)なデータと、今回の調査のような断面調査を単純に比較対照に用いるべきではないが、メンテナンスを受けていない人の経年変化を把握することは現実的には不可能なので、メンテナンス患者の対照として初診患者データを参考にするにはやむを得ないと思われる。

参考文献

- 1) 熊谷 崇ほか：初診患者の歯周病学的プロフィールと喫煙習慣。ヘルスケア歯科誌, 1(1);13-25, 1999.

いままで診療室の診療データの蓄積は、ほとんど行われていなかったが、日本ヘルスケア歯科研究会では患者臨床情報管理ソフト“ウイステリア”を開発し、その使用を会員に勧めてきた。

多くの会員がメンテナンスの成果を知りたいと考えているが、日々のデータ入力には膨大な時間と手間を必要とするので、なかなか定着しないで悩んでいる会員も多い。この調査で求めた初診患者データを入力することをその第一歩としてスタッフとともに取り組めば、数年後には自医院のメンテナンスの成果を知ることができるようになるだろう。そういう点で多くの診療所で、まず初診患者データの入力に取り組んでいただきたい。入力当初は、なかなかデータ入力の意義を実感できないものだが、今回のように多くの診療所のデータを集積することによって日本の歯科診療所受診患者のデータベースを構築することが可能となる。このデータを診療所や外部へフィードバックすることにも大きな意義があると考えられる。

今回は初めての調査だったので、いくつか問題点も浮かび上がってきたが、これらを解決してより多くの診療所の参加による情報をもとにして、日本の歯科診療所初診患者データを提供していきたいと考えている。